

# 昭和56年度 和歌山県名匠

## 【指物師】

さし もの し  
ふな だ たけ ひこ  
鮎 田 武 彦

(通称 鮎田和道)  
ふなだわどう

【現住所】新宮市

【生 年】大正2年

### 職 歴

昭和4年、父・鮎田初太郎氏から手ほどきを受け、指物技術を習得。

戦後間もなく独立し、この道一筋に励んでこられた。

### 業績の概要

指物製作には、素材の選択、乾燥、木取り、加工及び仕上げの工程を経るが、いずれも素材の性質を十分見極めめることが重要であり、氏は、これらを一貫して製作される。

父・初太郎氏は厳格で、他の弟子と別け隔てすることなく、氏の入門後5年間は、板けずりのみの修業であった。

氏は、茶だんす、箱類など、あらゆる家具類を製作されるが、記念すべき作品としては、昭和35年、佐藤春夫氏の文化勲章受章記念として、注文を受けた文机、また、昭和37年5月、両陛下幸啓の際、速玉大社社殿にお座りになられた御椅子と御帽子置きなどである。

また、昭和52年、第28回全国植樹祭の折、新宮市から陛下に献上された、植物標本入れの桐箱も氏の作である。